

今号は、尿沈渣(ちんさ)のお話です。これは、どのような検査で何がわかるのでしょうか。

尿沈渣とは？

尿沈渣とは、尿を試験管に入れて遠心分離したときに、試験管の底に溜まる細胞成分などのことです。体内でいらなくなった老廃物を腎臓で血液からこしとって、体外に尿として捨てられるとき、その通り道となる腎臓・尿管・膀胱・尿道などからでてきます。

細胞成分として、赤血球、白血球、上皮細胞、円柱などがあります。細胞以外にも、沈渣の中には細菌、寄生虫および寄生虫の卵、塩類や薬物の結晶などがでてきます。それを顕微鏡で調べるのが尿沈渣検査です。

検査でわかることは？

例えば、血球は本来尿には出てこないものですが、腎臓の働きが悪くなってくると少し出てくる場合があります。膀胱炎などの炎症が起ると、その原因である細菌や、それを退治するために大量に産生された白血球が尿にでてきます。

血球以外にも、尿の通り道の表面がはがれ落ちてでてくる上皮細胞や、尿細管によって作られる円柱とよばれるものがでてきます。円柱は、腎臓が悪くなると見られ、その名前のおり、円柱の形をしています。中に何も入っていないものや、中にぎっしり細胞がつまっているものもあります。上皮細胞や円柱などは、それぞれの特徴から、体内のどの部分で作られたかを推測することができ、その状態によって体内に異常があるかどうかを判別することが可能になるのです。他にも、卵円形脂肪細胞などのようにネフローゼ症候群に特徴的な細胞もあります。もちろん、癌などの悪性細胞がでてくることもあります。

しかし、他の検査結果、症状、患者様の状態によっては同じものでも正常であったり、異常であったりします。検査結果は、医師に総合的に判断してもらわなければなりません。

気をつけることは？

検査につかうのにもっとも良いのは、「早朝第一尿」といって、朝、目が覚めて最初にでる尿です。就寝中は尿がやや酸性になっていて、試験紙で見たい化学成分や、沈渣で観察する細胞成分がよい状態で保存されています。入院患者さまではこの尿が理想的です。

また、尿検査は、採血と違って完全に体の外に検体が出てしまうことになるので、採尿カップの汚れ(目に見えないものも含む)や、尿採取後長時間の放置などで、検査結果に支障がでることがあります。尿は清潔なカップでとっていただき、出来るだけ早く検査室にだしていただきますようご協力お願い致します。

当院では

10月より、尿一般検査・尿沈渣を検査室で実施することになりました。何かご不明な点などがありましたら、お気軽に検査室へお問合せください。

(今号担当:臨床検査技師 角田)



上皮円柱 (400倍)

(「尿沈渣検査法」(社)日本臨床衛生検査技師会より)